

【幼保小連携通信】

保育課・学校教育課  
幼保小連携担当

# 夢に向かって挑戦する子ども

令和6年度

7月5日(金) No.9

## 谷口台小学校でパネルディスカッション

～幼児期の学びを小学校での学びや生活にどのようにつなげるか～

谷口台小学校では、生活科の授業に、連携園の先生を招待し、授業参観、協議を通じて一緒に授業について考えました。

授業参観後の協議会では、グループ協議を行った後、全体会が行われました。

全体会では、文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官 齋藤 博伸先生、連携園の1つである RISSHO KID'S きらり相模大野の三上 祐里枝園長先生、1年生担任で幼保小連携担当の日比谷 美智代先生、2年生担任 加藤 泰徳先生がパネリストとなり、「幼児期の学びを小学校にどのようにつなげるか」をテーマとしてパネルディスカッションを行い、職員みんなで学びました。

グループ協議【Point】研究授業の子どもの姿を起点として協議



全体会【Point】園の実践を聞き、幼児期の学び、学びのつながりを職員全体で考える



【三上先生】園では、遊びを通じて学んでいます。興味・関心がベースとなっています。「なんだろう」という不思議さが興味・関心につながり、行動につながります。保育者は、学びにつながるための援助をしています。遊びを通じて仮説を立てたり、思考力が育ったりします。～スライドを使って幼児期の学びについてお話していただきました～

【日比谷先生】スタートカリキュラムを始めて、「勉強しないの?」と聞く1年生が少なくなってきました。子どもたちも、園や学校で行うすべてが「学び」という認識になっているのでは。年長児は、「できるぞ」がMAXになっていると思うので、そのやる気を大切にしていきたいと思っています。また、幼児期は「個」をととても大切にしています。「個」を大切にすることで、仲間も大切にできると考えています。

【齋藤先生】「気付き」とは、一人一人が認識したこと、知的であること、情動的な側面があること、次の活動を誘発するものです。生活科のワークシートから、何を見取るか、どのように言葉かけをするか…先生の朱書きが温かいですね。「思いや願いをもつ」→「活動や体験をする」→「感じる・考える」→「行動する、表現する、振り返る、伝え合う」という学習の過程がありますが、体験と表現を一致させ、活動や体験をたっぷり行うとともに、活動や体験の中で表現していくことが大切です。



協議会が終わった後も、園と学校の先生が語り合う姿が…

【谷口台小学校学区内連携園】 相模女子大学幼稚部・たいようこども園・ひよこ第3保育園・RISSHO KID'S きらり相模大野・まあむキッズ相模大野北口・りとせ相模大野こども園